

令和8年度 長崎市立池島小学校 学力向上プラン

令和8年9月1日 池島小学校研究部

Ⅰ 本校教育目標：「『愛顔』で、より良い未来に向かって努力する子供の育成」

[重点目標及び学習面の実践事項]

◎逆境を強みに変える「超・個別最適学習」

～一人一人を大切にした「個別最適な学び」への実践～

「確かな学力の定着に向けた取組」

～得意な分野を伸ばし、苦手な分野を克服する指導～

○学習指導要領に基づいた指導

○「あじさいスタンダード」「長崎県読解力向上プラン」「長崎県授業改善メソッド」の活用/クロームブックを「普段使い」する授業展開

○読書活動の充実

○「読む」「書く」「発表・表現」などの言語活動の充実

○学力調査及び業者テストの分析及び課題解決に向けた働きかけ

2 本校の実態

(1) 在籍児童は6年生に1名であり、教師と1対1の授業を行っている。学習に対する苦手意識はあるが、学習には前向きで、中学校に向けて力が伸びている傾向にある。

(2) 昨年度より、振り返りを校内研修のテーマとしている。教科間で統一した型の振り返りシートを使用したり、視点を与えてブラッシュアップしたりするなど、振り返りによって学びの力が高まるか検証している。

3 校内研究主題と学力向上プラン

(1) 校内研究主題

「『振り返り』により学びに向かう力を高める」

(2) 研究の柱と実践事例(3つのアプローチ)

<授業改善> 対話を通じた「振り返り」の充実

①言語活動の重視

「伝える力(コミュニケーション能力)」を育成し、別の考えに触れることで、自分の理解不足や新たな視点に気づく場を設定する。

②振り返りシートの定着

全教科共通の視点(何ができるようになったか、何が課題か、次はどうしたいか)をもたせたシートを活用し、思考を言語化させる。

<ICT活用> 個別最適な学びの可視化

①Chromebookの日常活用

スプレッドシートやムーブノート等での振り返りの共有を行い、互いの学びから刺激を受ける環境を作る。

②Qubena（キュビナ）等の活用

AI 型教材による「個別最適な振り返り」を実施し、自身の習熟度を客観的に把握させる。

<接続> 学校から「自学（家庭学習）」へ

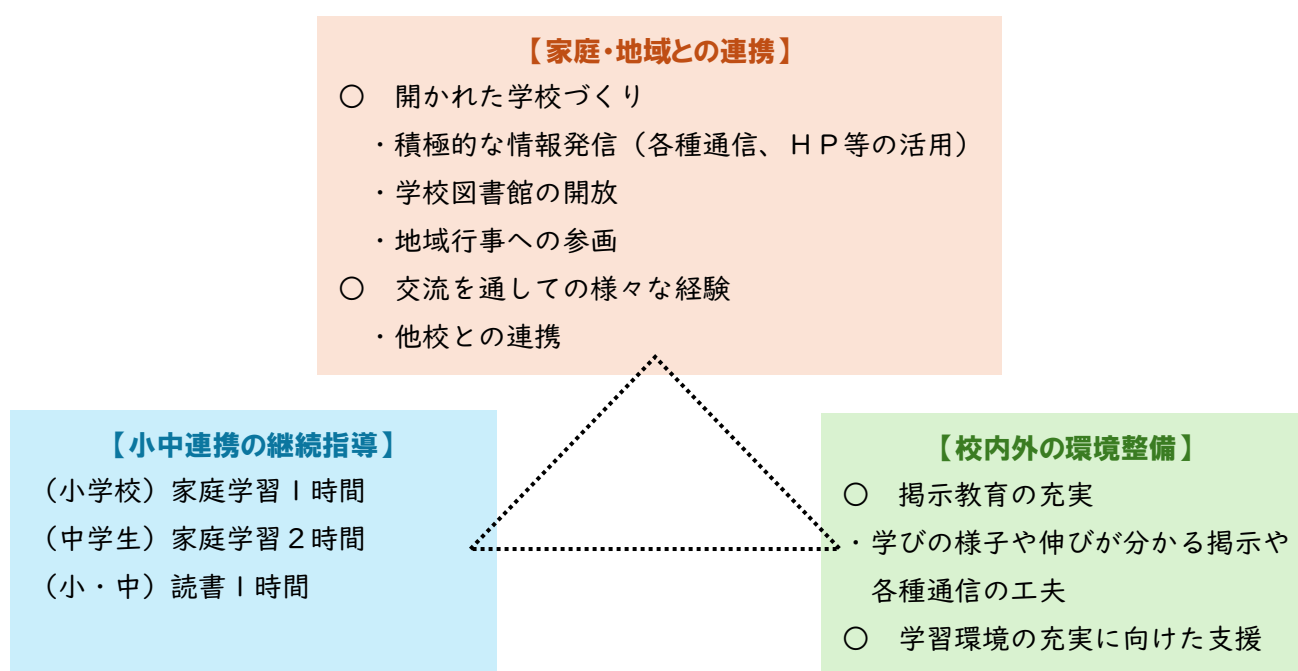
①学習の仕方の指導

振り返りで明確になった「自分の課題」を、どう家庭学習で解決するかをセットで指導する。

②「振り返り」を宿題へ

授業の終わりの気づきを、その日の自学ノートの起点にする指導を徹底する。

（３）学力向上プラン



4 全国学力調査等の分析による今後の課題と改善策

	不正解の問題から読み取れる児童の傾向	改善策
国語	読むこと、書くことに対する抵抗感があり、情報を適切に読み取る力、自分の考えを伝えるように書く力の育成が求められる。書き手の、「文が伝わりやすくなるような工夫」という視点をもって文章を読むことも苦手である。	文章を部分ごと、場面ごとに区切りながら読み、問いと答えや物語の山場、筆者や作者の思いなど、文章を読むうえで核となるところを丁寧に捉えるようにする。筆者や作者の工夫にも触れることで、自らの書く活動にも生かせるようにする。
算数	文章の読み取りへの苦手意識から、題意をとらえるのに困り感があるため、向上してきている基本的な計算力が発揮できないている。	考え方が分かるように、途中式も丁寧に書かせるようにする。併せて、小学校5年生以前で学習する計算の仕方を復習し、演習に取り組ませる。

